



おがさわら・だいすけ 1974年生まれ 医学博士。神戸大学医学部医学科卒。2023年2月より伊達赤十字病院循環器科第2循環器科部長として着任。狭心症や心筋梗塞といった循環器救急疾患をはじめ、足梗塞といった病気に代表される下肢の血管病に対して専門的に取り組む。

医療コラムも残すところあと2回。今回は「下肢静脈瘤」を取り上げます。



一言で表現すると、足表面の血管（静脈）が拡張し、コブ状に浮き出てる病気になるります。

通常足の血液は、静脈と呼ばれる血管を通り心臓に還（かえ）っていく

てくるんですが、この病気の正体です。

立ち仕事歴の長い方や運動不足の方、加齢による筋力の衰え、妊娠・出産による女性ホルモン、

下肢静脈瘤

下肢静脈瘤を発症した足



足に血液逆流し停滞

らって心臓に戻ることができず、足に血液が逆流し停滞してしまします。

その結果、足の静脈に血液が徐々にたまっていきます。

また、日本では軽症を含めると中高年の女性を中心に1千万人以上いる

と言われていますが、軽症の間はあまり症状がないうことより、見た目の問題と放置されがちなのが特徴です。

病状の進行とともに、こき起す恐れもあるため、早めの診断と適切な対応が大切です。



治療法について引き続き解説していきます。軽症の方に対する治療方法として、代表的なものに弾性ストッキング（着圧ソックス）が挙げられ、

血管を直接外から圧迫することで血流の促進が得られます。運動や生活習慣の改善も大切で、足を動かす、ふくらはぎの筋肉を鍛えることは静脈瘤の予防にも有効です。



次の手段は医療機関における治療になります。比較的軽症の間は、硬化療法とよばれる、コブの部分に薬剤を注入し、血

液を固めて静脈瘤をつぶす方法を選択します。一定以上進行した静脈瘤に対しては、レーザー治療（血管内焼灼やく術）という、カテーテルというチューブ型の治療器具を、問題を起こしている

静脈内に挿入し、熱の力で血管を内側から焼灼し、閉鎖させる治療になります。

直近ではグルー治療という、医療用接着剤を注入する治療も行えるようになってきました。近年は上記のように、切らない・縫わない力テーテル治療が主流で、痛みも少なく、1時間程度で治療が可能です。より詳しく知りたい方は、担当の先生に直接お聞きするのが良いでしょう。

部分に薬剤を注入し、血

液を固めて静脈瘤をつぶす方法を選択します。